

『外来語』言い換え提案』についての一考察

—秋田高専専攻科学生の理解度調査から—

手島 邦夫

A Study of "Suggestions for Paraphrasing Loanwords"
—From the Survey of Understanding by the Postgraduate Course Students
of Akita National College of Technology—

Kunio TESHIMA

(2007年11月29日受理)

This study is the report on the understanding loanwords by the postgraduate course students of Akita National College of Technology based on "Suggestions for Paraphrasing Loanwords" by The National Institute for Japanese Language. According to the results of this survey, the understanding of the students are higher than the public, because of their youth and the environment of National College of Technology. And in the fields of "information" and "economy and industry", they understand well, but they do not understand very much in the ones of "administration" and "management".

1. はじめに

近年のカタカナによる外来語の急激な増大に対し、国立国語研究所（以下国研と略称）では平成14年8月に「外来語」委員会を設置、翌15年4月に「第1回『外来語』言い換え提案」を公表、その後3度の発表を経て平成18年3月に総集編（以下文献①と略称）を刊行した。本稿は総集編に示された外来語とその言い換え語のデータを基に、本校の専攻科学生に対して理解度調査を行い、以下のことを明らかにしようとするものである。

- (1) 本校専攻科1年生の外来語の「理解度」を把握する。専攻科1年生は大学三年生（20～21歳）に相当し、20歳前後の若者の理解度を知ることは、若い年代におけるカタカナによる外来語の「定着度」を知ることである。
- (2) 高専学生の個々の外来語理解の特徴について知る。とくに工業技術者を志す若い世代の外来語の理解度には、分野により他と異なる特質があるかどうかを把握する。

2. 問題点と国研による提案の趣旨

国研編『外来語と現代社会』（以下文献②と略称）では、外来語氾濫の問題点として、日本語のよき言葉や伝統が崩れていくことと、日常生活での情報のやり取りや意思疎通に支障が生じるという点を挙げる。前者の「伝統重視」と後者の「機能重視」に対し、この『『外来語』言い換え提案』（以下「提案」と略称）は、後者の機能重視の立場でなされたことを記している。

筆者自身も新聞や雑誌、またTVのニュース等でもしばしば意味不明の外来語に接してとまどうことがあり、カタカナ語辞典の類を引いた経験がある。後者の立場による本提案を支持するゆえんである。文献②における提案の趣旨は次の通りである（33頁）。

- ① 公共性の高い場面で外来語をむやみに多用すると、円滑なコミュニケーションに支障が生じる。
- ② 特に官庁・自治体、報道機関などでは、それぞれの指針に基づいて、言い換えや注釈などにより、受け手の理解を助ける必要がある。
- ③ この提案は、そのための基本的な考え方と基礎資料を、具体的に提供するものである。

3. 調査の概要

調査は、平成19年2月22日1, 2時限目に専攻科棟の講義室Iで実施。対象は専攻科1年生27名(男26, 女1名)である。外来語176語とその言い換え語を記した一覧表を作成して配布し、外来語とその言い換え語を比較させ、被験者にとって「どちらが分かりやすいか」という点で○をつけさせた。言い換え語を選ぶ場合、複数ある場合はそのうちの一つだけに○を付すように指示したが、結果的に二つ○がついた語や全くついてない語も若干あり、それは末尾の集計一覧の「合計数」の異なりとなっている。

配布した一覧表では、文献①から代表的な言い換え語を選んだ。それらは文献②の「参考資料」の一覧(105~115頁)における「言い換え語」とは概ね一致したが、それ以外に「その他の言い換え語例」からも、筆者の判断により加えたものがある。

4. 調査結果

調査結果の一覧は末尾の別表の通りである。通し番号順ではなく、外来語につけた○の多い順(専攻科生にとり外来語の方が分かりやすい順)である。言い換え語で複数あるものは左・右の、三つあるものは中も加えて内訳を示している。「理解度」のA~Dのランク付けは、文献①②の基準に合わせた。

文献①②では、★☆☆により理解度を次のように示している。

★☆☆☆ その語を理解する人が国民の4人に1人に満たない段階

★★☆☆ その語を理解する人が国民の2人に1人に満たない段階

★★★☆☆ その語を理解する人が国民の4人に3人に満たない段階

★★★★☆ その語を理解する人が国民の4人に3人を超える段階

文献①②では、★★★★☆の語は、既に十分に定着している外来語であるとしている。

本稿では以上の段階を次のようにランク分けして「全体」の欄に示した。

理解度 75~100%……A

50~74%……B

25~49%……C

0~24%……D

またA~Dの基準により、今回の調査では外来語の方に○を付した人数で各語を次のように区分し

た。

27~21人……A

20~14人……B

13~7人……C

6~0人……D

文献②の記述(34頁)から引用すれば、Bは「定着に向かって進行しつつあるが、「幅広い層の人に理解してもらう必要のある場合には、何らかの手当てが必要な語」、Cは「現状では、外来語のまま用いることは避けたい」が「今後、普及・定着に向かう可能性はある」語、Dの語は「最も分かりにくい外来語であり、公的な場面でそのまま用いることは避けるべき」語である。

5. 考察

5.1 A~D各段階の傾向について

「提案」による外来語の、本調査による高専専攻科生の理解度と、国研調査による全体の理解度とを比較した表を示すと、次の通りである。

理解度(%)	区分	解答数	専攻科生	提案の全体
75%以上	A	27~21	46	3
74~50%	B	20~14	36	31
49~25%	C	13~7	32	38
24%以下	D	6~0	62	104

理解度A(十分に定着している外来語)の語については、専攻科生の理解度が「全体」を大きく上回っている。B, Cについてはほぼ同じで、D(分かりにくく公的な場面で使用を避けるべき語)については、「全体」を大きく下回っている。

年齢が若くなるにつれ外来語の理解度が高くなることは『国立国語研究所報告126』(文献④)の調査に示されている。また専門が工業分野であることから、ある程度予想していたことではあるが、やはり外来語の理解度は、各年代を合わせた全体よりかなり高いことがわかった。

また高専の学生の学力は、入学前の中学三年生の時点で(昭和年代ほどではないが)比較的上位であるとされ、さらに専攻科生については、本科から推薦によって進級する場合クラスの中位より上にあることが条件となるため、そうした相対的な学力の高さが、外来語の理解度の高さに反映されているとも考えられる。

5.2 特徴的な各語について

5.2.1 とくに理解度が高かった語

理解度 A の語のうち、27人中25人以上が理解できると選んだ語を取り上げたい。

外来語で全員が理解できるとしたのは、「シミュレーション」「トラウマ」の2語である。どちらも「全体」では B の語であるが、前者については、工業科目での実験・実習において比較よく用いられる語であり、後者は現代の若者の間によく定着している語である（『国立国語研究所報告126』（文献④）によれば20～29歳では77%の理解率である）。

次に理解度が高いのは、26人が○にした「アクセス」「インターンシップ」「ガイドライン」「コンセプト」「セキュリティ」「ハイブリット」の6語である。注目されるのは、「コンセプト」と「ハイブリット」が「全体」では C の語であること、さらに「インターンシップ」が D の語であるということである。秋田高専では4年時の夏休みに「インターンシップ」（就業体験）が行われており、そのことが高い理解度を示している理由であろう。

次いで25人が理解しているのが、「アイドリングストップ」「インパクト」「グローバル」「サプリメント」「ドナー」「ナノテクノロジー」「バイオテクノロジー」「バリアフリー」「マルチメディア」の9語である。このうち「グローバル」が「提案」の「全体」では C、「ナノテクノロジー」は D である。文献④によれば20～29歳では「グローバル」の理解度は B、「ナノテクノロジー」は C であり、とくに後者の高専での理解度が高いことが注目される。

以上の理解度はどの分野の外来語について高いのであろうか。A の語46語の分野を『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』（文献③202～204頁）によって分けると、「情報」10語、「経済産業」8語、「共通」7語、「医療」5語、「教育・環境」各3語、「科学技術・行政・経営・福祉・安全」各2語という結果であった。「情報」と「経済産業」が多く、それらの分野の外来語が比較よく知られていることがわかった。

5.2.2 とくに理解度が低かった語

理解度 D の語のうち、27人が全く選ばなかったか、1人しか選ばなかった語を取り上げる。

外来語で誰も選ばない（理解できないとした）のは、「アジェンダ」「コミット」「コミットメント」「コンソーシアム」「コンプライアンス」の5語であった。文献③の分野でいうと、前の三者は「行政」で

後の二者は「経営」に分類される。

また外来語回答数が1の語は14語あり、「インキュベーション」「オフサイトセンター」「カウンターパート」「ガバナンス」「コミュニケ」「コンセンサス」「サーベイランス」「スキーム」「センサス」「デジタルバインド」「ハーモナイゼーション」「フェローシップ」「リードタイム」「ロードプライシング」である。これらの分野を見ると「行政」4語、「経営」4語、「医療・情報・経済産業・教育・環境・安全」各1語となり、やはり「行政」と「経営」分野の理解が低い。この結果から、いわゆる「文系」の分野の外来語の理解度が低いことが言えよう。

もっとも以上の19語は「提案」の「全体」でもほとんど D の理解度であり、「コミュニケ」のみが C である。この「コミュニケ」も「行政」の語で、専攻科生の理解度は「全体」より下回って D である。この語はニュースや新聞でしばしば見かけられるが、このことは社会事象に対する高専生（または若者一般）の関心の薄さを物語っているのかもしれない。事実、文献④（84頁）では10代、20代の年齢層では、「コミュニケ」の理解度は40代、50代の理解度をかなり下回っている。

5.2.3 「全体」より理解度の差の大きな語

理解度において、「提案」の「全体」が C で専攻科生が A というように、専攻科生の方が2段階以上高い理解を示している外来語は39語あり、そのうち「全体」が D で専攻科生が A のように、3段階高い理解の語は、「インターンシップ」「ナノテクノロジー」「コンテンツ」「ポテンシャル」「ログイン」「コラボレーション」「タイムラグ」である。これらの分野は順に、教育・科学技術・情報・教育・情報・共通・共通である。前述したように、これらは工業高専という環境の中でとくに多く触れる機会がある外来語と考えられる。

一方「全体」より理解度が低い語もあり、それは「デイサービス」（全体 A→B）、「シンクタンク」（全体 B→C、以下同じ）、「マスタープラン」「ワークショップ」「スクーリング」「フォローアップ」「コミュニケ」の7語である。分野は、「行政」3（シンクタンク・マスタープラン・コミュニケ）、「教育」2（ワークショップ・スクーリング）、「経営・福祉」各1（フォローアップ・デイサービス）で、やはり「行政」分野の外来語の理解度が、とくに低い結果となった。

6. まとめ

- (1) 本校専攻科1年生の外来語の「理解度」は、「提案」における全年齢層を平均した時の理解度をかなり上回っていた。それは20～21歳という若さや、比較的高い学力であることに加え、工業高専という環境にも影響されていると考えられる。これを外来語の側からみれば、全年齢層の中では、工業高専の学生には定着しつつあるものが相対的に多いということが言えよう。
- (2) 一方個々の外来語の理解度には分野ごとにバラつきがあり、「情報」と「経済産業」分野の外来語の理解度が高く、「行政」と「経営」分野の外来語については理解度が低いことがわかった。このことは現在の若者一般の傾向であるとともに、やはり工業高専という環境が影響しているものと考えられた。

7. おわりに

本調査により外来語理解の特質の一端が明らかに

されたが、被調査者は少数であり、今後も継続して調査していくこととしたい。また国研では1語ずつの詳細な分析結果も報告しており（とくに文献④）、本研究でもさらに他の角度から分析を加えていくこととしたい。また今回は「言い換え語」自体の妥当性については言及しなかったが、今後は調査結果を参考にしながら、そのことについても検討していくこととしたい。

参考文献

- ①『「外来語」言い換え提案 第1回～第4回総集編』国立国語研究所「外来語」委員会編（2006.3）
- ②『外来語と現代社会』（新「ことば」シリーズ19）国立国語研究所編（2006.3）
- ③『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』国立国語研究所「外来語」委員会編（ぎょうせい、2006.8）
- ④『公共媒体の外来語—「外来語」言い換え提案を支える調査研究—』国立国語研究所報告126（2007.3）